

議 長	副議長	局 長	次 長	書 記
■		■	■	

(様式 2)



30年5月25日

香美市議会議長 小松紀夫 様

会 派 名  
代表者氏名

市民クラブ  
石川彰宏



調査研究等報告書

下記のとおり実施しましたので報告します。

記

1. 日程 5月23日～24日
2. 場所 大分県 中津市
3. 目的 山崩れ災害について 等
4. 該当する政務活動費の使途項目 調査研究
5. 支出経費 (内訳は裏面記載) 123,525円
6. 参加議員名 小松孝 利根健二 山本芳男
7. 調査研究成果の概要、所見 別紙
8. 成果物、資料等 中津市議会 全員協議会資料



(裏面)

支出経費の内訳と金額

区 分		金 額
交 通 費	鉄 道	自至 往復
	船	自至 往復
	航 空	自至 往復
	バス・ タクシー代	自至 往復
	借上料	香北観光バス代 @32404×3 97,212円
宿 泊 費	ホテルルートイン中津@6400×3 19,200円	
参 加 費		
駐 車 場 代		
資 料 印 刷 費		
旅行代理店諸費用	香北観光トラベル @2371×3 7,113円	
講 師 謝 金	謝礼金	
	鉄 道	自至 往復
	船	自至 往復
	航 空	自至 往復
	バス・ タクシー代	自至 往復 km
	宿 泊	
	食 事 代	
	借上料	
合 計		123,525円

(特記事項)

上記経費は、香北観光トラベルの一括領収書となります。

## 所感

- 中津市において、発生予測が困難であったことは、今後住民にとって不安が残る。  
一方、香美市は地質が違っており、一定、発生予測が可能である。早めの避難対応を行うことで、減災につなげる必要がある。
- 事故発生後の救出活動において、二次災害が発生しなかったことは幸いである。香美市では、昭和47年の繁藤災害での辛い経験がある。  
崩落事故に限らず、二次災害は二度とあってはならない。今後も救助活動においては、安全の確保が最重要項目である。
- 現地対策本部の設置については、市役所職員・自衛隊・国土交通省・警察・消防・高知県・建設業協会等で設置されると思われるが、スムーズに取り組むための、指揮系統の確認等事前にシミュレーションしてくと良い。  
場合により、災害救助犬関係や医師等民間の方の参加も見込まれるので、それも含めた現場の管理・情報提供などの対応も求められるのではないかな。
- 国・県への支援要請や災害関連の予算についてスムーズに行くような体制が必要である。



# 概要

## 事故発生

事故は今年 11 日午前 3 時 40 分ごろ、耶馬溪町金吉の住宅地の裏山が崩れて、民家 4 棟が全壊し、21 歳から 90 歳までの住民 6 人が死亡したものである。

## 地すべりが発生した理由

事故直前まで降雨や地震がなかったことから、さまざまな憶測がなされた。京大防災研究所の千木良雅弘教授と山崎新太郎准教授のチームの見解を書す。

地すべりした斜面は、大分県西部の「猪牟田（しむた）カルデラ」が約 100 万年前の噴火したときの耶馬溪火砕流で形成された「溶結凝灰（ようけつぎょうかい）岩」という火山岩が風化したものだと判明した。

一方、下層はもっと以前の噴火でできた「凝灰角礫（ぎょうかいかくれき）岩」で構成されていて、この地層は崩れていないが、地すべり面の境界からは地下からの湧き水が流出していた。

このことから調査チームは、現場では以前に起きた地すべりによって、上部の地層が崩壊し、斜面途中のコブにひっかかってとどまっていたが、風化が進み、湧き水の影響で突然崩壊したと結論づけた。

※林野庁・国土交通省・大分県の原因究明に対する調査の最終結果はまだ出ていないようである。

## 中津市議会 全員協議会での資料

1 災害の状況 2 災害対策における体制等 3 避難勧告と避難所開設対応等 4 救助活動 5 被災者支援 6 注意喚起と情報発信 7 原因調査及び復旧対策避難生活等については、中津市議会全員協議会の報告資料を添付。



# 領 収 証

市民クラブ 様

金額	¥	1	2	3	5	2	5
----	---	---	---	---	---	---	---

但し 4/24 交通費・宿泊費

上記金額確かに領収致しました

平成 30年 5月 29日

〒781-4212  
高知県香美市香北町美良布1061番地  
有限会社 香北観光  
有限会社 香北観光  
代表取締役 山中盛世  
電話(0887)59-3393

